

第41回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選会

大会展望

11月12日から14日にかけて、男子26・女子27校の計53チームによるウィンターカップ全国大会への出場権をかけた熱戦が繰り広げられる。開催地は小樽市、メイン会場は小樽市総合体育館。

男子はシード権を有する4校を中心とした戦いになりそう。その中でも軸となるのは第1シードの東海大四と第2シードの恵庭南。東海大四は準々決勝で函大有斗との対戦が予想される。注目の対決になりそうだ。恵庭南のブロックには、室蘭海星学院、旭川工業、札幌平岸といった実力ある学校がひしめきあう。帯広白樺学園もあなどれなく、恵庭南は2回戦、そして準々決勝とハードな戦いが予想される。第3シードの旭川大高、第4シードの札幌月寒にも優勝を狙える力がある。大本命といえるチームはなく、東海大四、恵庭南を中心にどのチームにもチャンスがあるといえる。全国への切符は1枚、混戦を制し優勝するのはどのチームになるか、熱戦に期待したい。

女子では、今夏のインターハイ優勝ですでに全国大会の出場権を獲得している札幌山の手が決勝戦から登場。決勝で山の手の手相手となるチームにも全国大会の出場権が与えられるということで、常に山の手に出場を阻まれていた札幌創成はウィンターカップ出場の絶好のチャンスといえよう。この創成を軸にシード校の北星女子、帯広南商、室蘭海星学院が準々決勝進出の4校になりそうだ。創成のブロックにはインターハイ道予選でシードを落としリベンジにかける函大柏陵がいる。北星女子のブロックには旭川藤、とわの森三愛と北星女子にとっては厳しい戦いが続きそうだ。帯広南商はなんとか北星女子に勝利し準決勝進出を狙いたい。海星学院は札幌東商と準々決勝進出をかけたの戦いとなりそう。勢いに乗れば怖いチームであり、台風の目となることも大いに予想できる。山の手への挑戦権をかけた熱い戦いを期待したい。また、決勝では全国制覇した山の手をどこまで追い詰めることができるか、山の手の手への戦い方とともに注目したいところである。

平成22年11月09日